

# 経営比較分析表

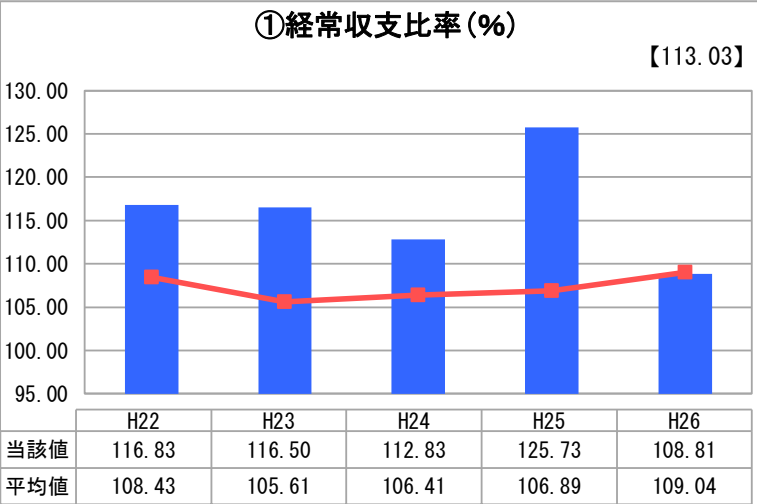
福島県 喜多方市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法適用	水道事業	末端給水事業	A5
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	77.57	86.39	4,190

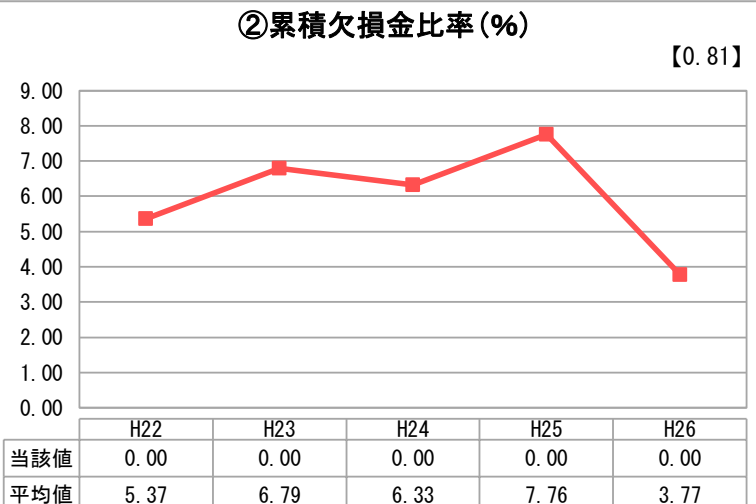
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
50,829	554.63	91.64
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
44,188	118.81	371.92

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成26年度全国平均

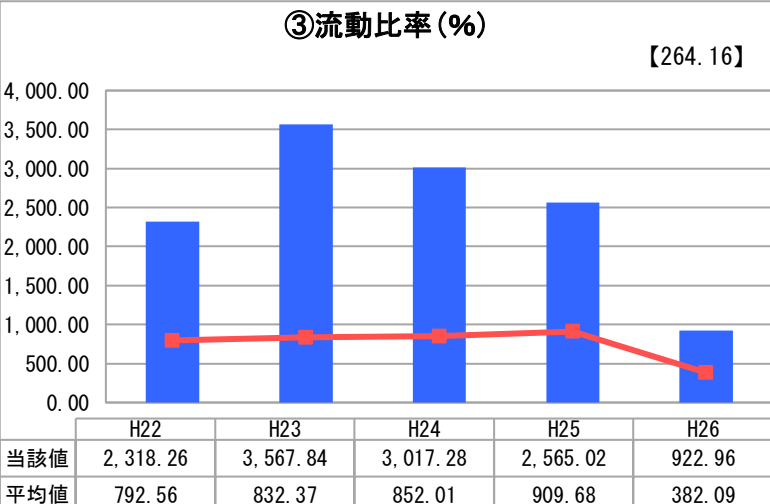
## 1. 経営の健全性・効率性



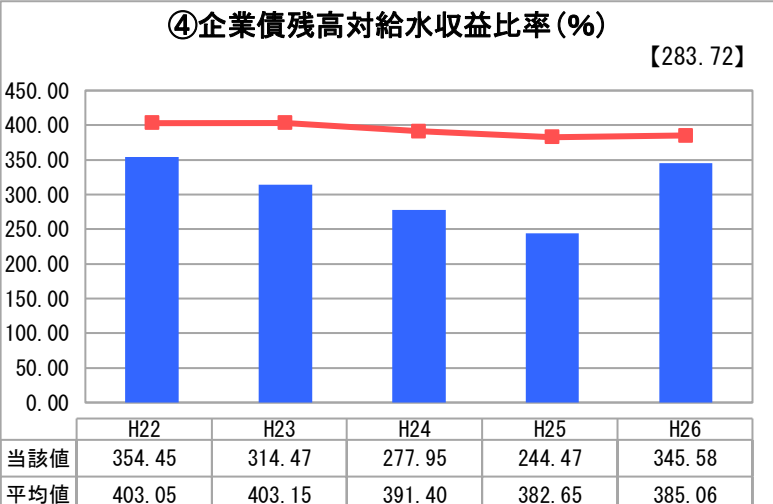
「経常損益」



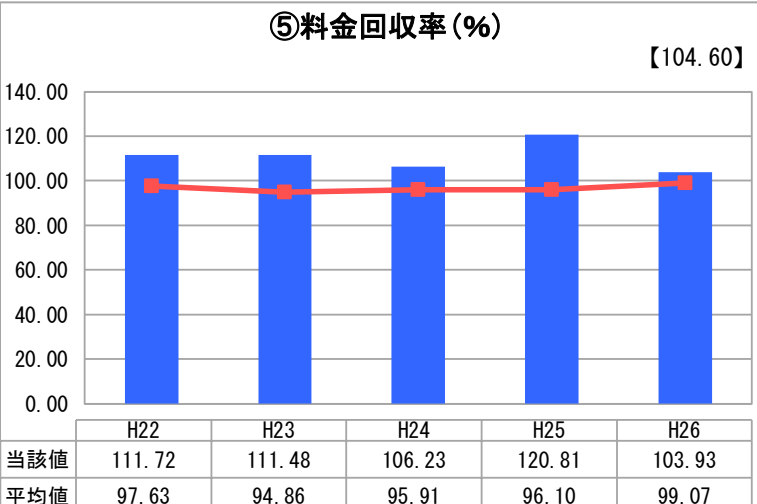
「累積欠損」



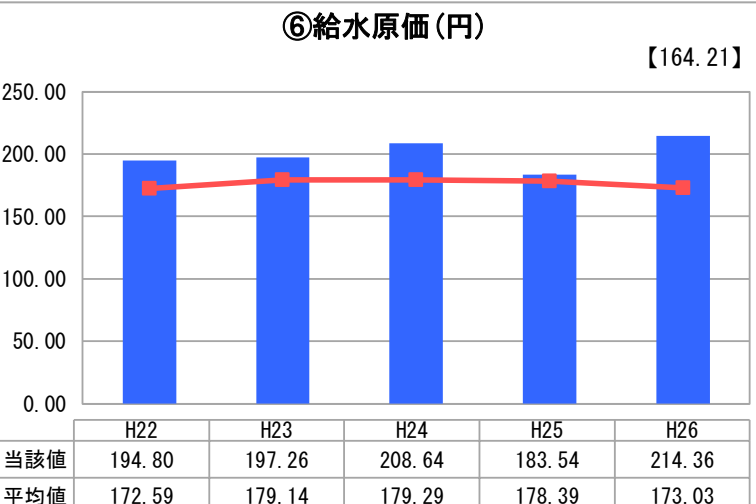
「支払能力」



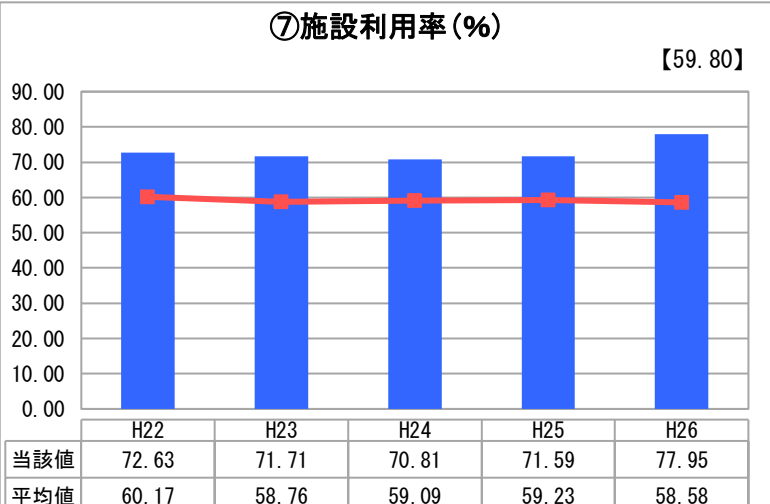
「債務残高」



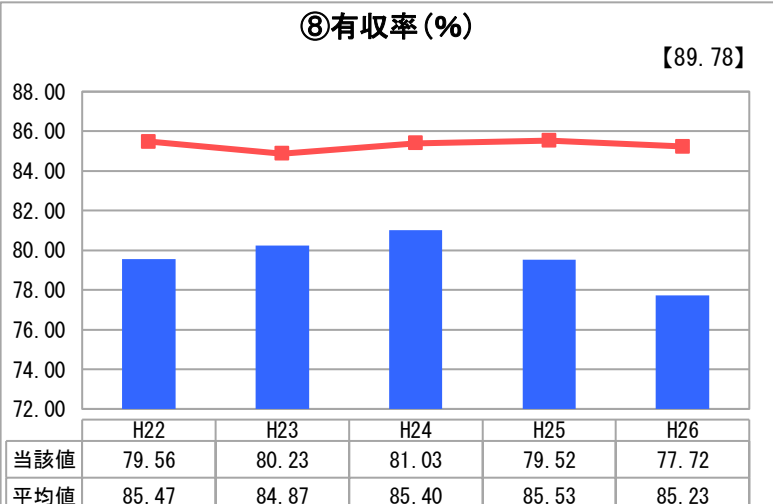
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

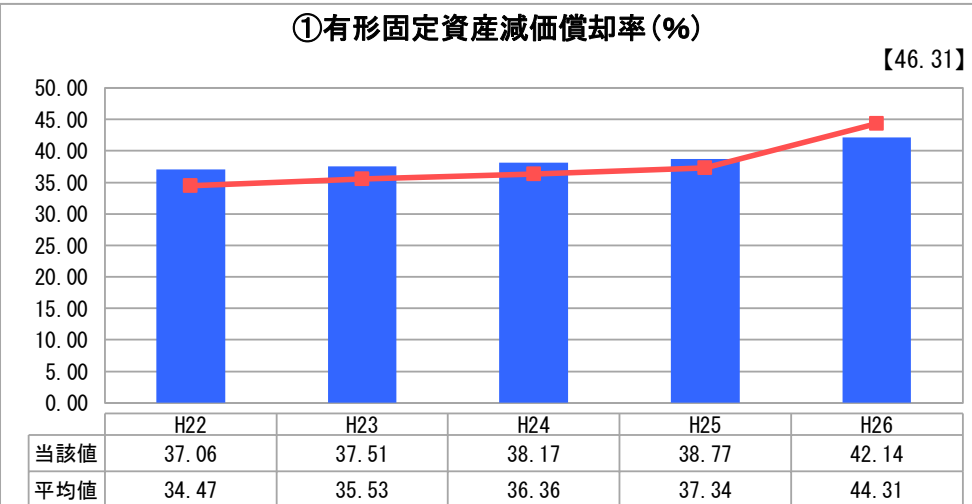


「施設の効率性」

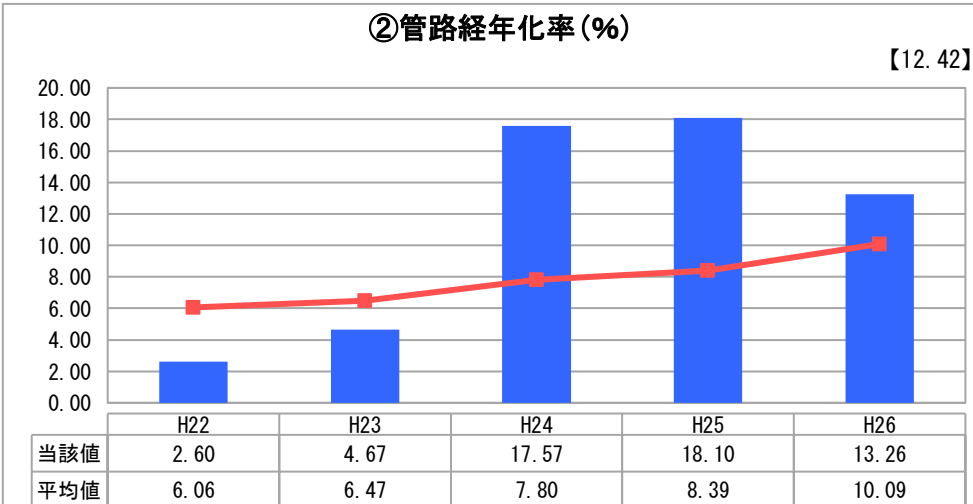


「供給した配水量の効率性」

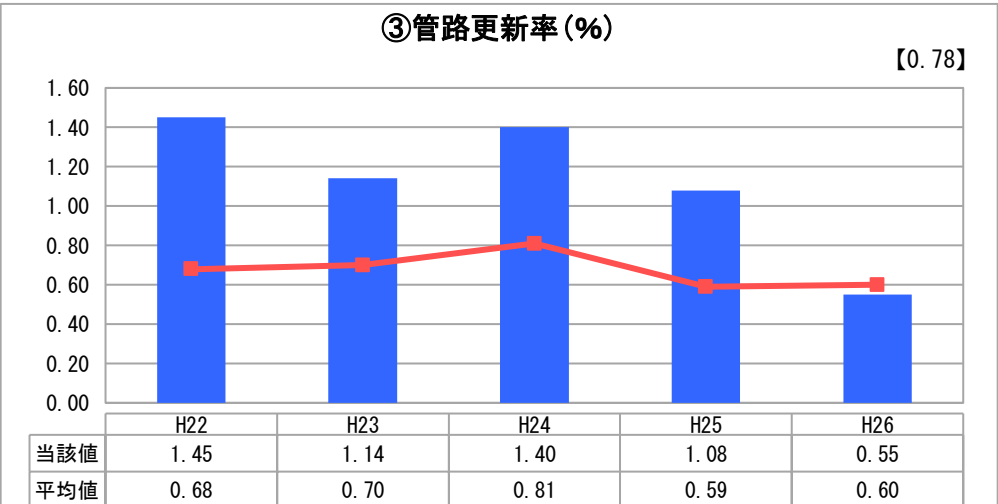
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

※ 平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

経常収支率は、平成26年度に類似団体より少し下がっているが、簡水統合による経費の増加による収支率の減少と考えられる。また、今後人口の減少によりさらに経常収支率は下がっていくと思われるので、加入促進、民間委託等による経費の節減をし現在の経常収支率を維持していけるよう経営の改善を図っていきたい。特に、有収率については類似団体よりかなり低いので、漏水修繕、減免等の費用が増加している。今後、水道施設の老朽管並びに一般家庭の老朽配水管の早期改修の呼びかけ等をし有収率の向上を図っていきたい。

施設利用率は類似団体より高くなっているが、市町村合併により水道事業についても簡易水道を水道事業に統合するなどし、無駄な投資をすることなく今ある施設を有効利用することができている。

### 2. 老朽化の状況について

老朽管が、平成24年度以降急激に増加しているが、これは、浄水場の機械設備等の更新事業や下水道工事の予定の減により更新工事が予定より遅れている。今後、中長期の財政計画に基づき老朽管の更新工事を進めていき、有収率の向上を図っていきたい。

### 全体総括

経営指標を分析すると、簡易水道事業を統合したことによる影響がかなり大きい(経常収支、企業債残高)ことから、今後、老朽管の更新を計画的に行い、有収率の向上に努めていきたい。今後、人口減少等による収益の減少も考えられることから経費の節減を図っていく必要がある。